



借楽園
(水戸市)

編集・発行

社会福祉法人 茨城県社会福祉事業団

茨城県水戸市杉崎町 1460 番地
電話 029-259-9666

E-mail:fukusi-j@atlas.plala.or.jp
http://business2.plala.or.jp/fukusi-j/

- 県立あすなるの郷
- 県立児童センターこどもの城
- 福祉サポートセンターあすなる

事務局長あいさつ



茨城県社会福祉事業団
事務局長
石井 好之

新たなステージに向かって

昨年4月、県から茨城県社会福祉事業団事務局に派遣されました石井と申します。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。あすなるの郷には県の新採職員研修でお伺いし、利用者の方々と一緒にあやめ公園で楽しく作業させて頂きましたことを覚えております。

現在、我が国では高齢化社会の進行が課題ですが、あすなるの郷でもその影響は着実に及んでおり、利用者の方々の日中活動が屋外から室内活動中心へ移行するなど、全体としてかつての賑わいがなくなりつつある印象を持ちましたのが赴任に当たっての率直な感想です。

また、あすなるの郷では旧棟7寮が建築後44年を経過し老朽化が進むなど、現在の設備基準の1/2程度という居住環境の改善が急務になっております。さらに、開所間もない時期に就職した職員が退職のピークを迎えており、これまで培ってきた知識や支援方法の継承が課題になるなど、現在のあすなるの郷は、例えて言えば、階段の踊り場にあるといった状況でしょう。

新たなステージに向かって力強く歩を踏み出すためには、この機会にあすなるの郷のこれまでの役割や実績の棚卸しを行う必要があるのではないのでしょうか。私なりに考えて見るに、あすなるの郷の強みとしては、第二に44年にわたる障害者支援の実績であり、昭和54年から全県的な取組として実施してまいりました在宅障害者等に対する相談・支援等の地域療育支援事業の展開があげられます。さらに、大学等との共同研究による強度行動障害支援システムの成果の施設内外での取組の実践もあります。一方、近年の

利用者の高齢化・高介護化という理由(制約)の下で、日中生活介護における創作的活動や生産機会の提供が果たして充分に行われているのか、身体能力や生活能力の向上という目的に対して積極的に利用者一人ひとりのニーズに応えた支援が行われているのか改めて課題として見直す必要があるのではないかと考えます。

このため、今年度は、利用者サービスの向上を目的として、いくつかの取組を実施してまいりました。まず、民間施設との職員の相互交流です。これまでも民間施設として県外の先進的な取組を行っていた民間施設に職員派遣を行ってきたところですが、今後は施設同士で職員が相互交流することにより、彼等の施設の優位性を認識し処遇に取り込むことでサービスの向上が乗数的に発揮できるよう工夫してまいります。また、高齢・高介護化による処遇の困難さの指摘に対しては、むしろこれを絶好の機会として前向きにとらえ、これまで培ってきたノウハウも継承しつつ専門性をより高め、利用者の方々の皆さまのニーズに可能な限り対応できるよう支援体制の充実を図ってまいります。

さらに、今年度は職場提案制度を創設し、業務改善や利用者への支援サービスの向上に寄与する提案を職員から広く募った結果、職員間のコミュニケーションの強化や地域生活移行に向けた優れた提案がなされましたが、今後もすべての職員が日頃から改善意欲を持ってサービスの向上に努める機運の醸成を図ってまいります。

最後にあすなるの郷の建替問題については、現在、県において鋭意検討が進められているところではあります。ご利用者様が可能な限り早期に安心して生活できますよう建替に向けて県と一体となって協力して取り組んでまいりたいと考えております。

茨城県社会福祉事業団では、今後も育成会の皆さまや県・地域関係機関と連携して、これまで受け継いできた実績と豊富な人材を生かし、地域共生社会の実現の二翼を担う存在としての役割を果たせるよう努力してまいります。

事業所キラッとトピックス

事務局

◎職場提案制度（アイディアオリピック）

これまで実施してきた提案制度を発展的に解消し、業務改善や利用者へのサービス向上を目的として今年度から始まりました。各事業所の職員から20件の応募があり、日頃からしっかりと課題意識を持って業務にあたっていることが伺えました。以下の作品が実効性・重要性に優れた提案として入賞しました。



【最優秀賞】
該当なし

【優秀賞】

『職員に対する健康増進についての取り組み』
あすなるの郷 管理部庶務課 主任 高橋 慶昌

【奨励賞】

『地域生活移行に対する支援改革』

『情報の有効活用と相互連携について』
あすなるの郷 支援部地域生活移行推進室 主任 野沢 悠喜

『定期開店「居酒屋あすなる店」について』

あすなるの郷 支援部ぼたん寮 支援員 下田 基

『利用者の高齢化に関する医療面の課題』

あすなるの郷 支援部（看護師） 専門員 大津 由美

茨城県立あすなるの郷

（障害者支援施設及び医療型障害児入所施設・療養介護事業所）

◎あすなる祭

11月5日（日）秋晴れの中、あすなる祭が開催されました。「みとちゃん」やアトラクション団体が音楽や踊りで会場を盛り上げてくれました。また、焼きそばや焼き鳥などの模擬店には沢山の方が集まり、美味しいものを囲みながら楽しい会話を弾ませていました。恒例のパザールコーナーでは掘り出し物を探す方がたくさん来場され、健康相談コーナーでは、血圧測定や骨密度測定など健康チェックをしていく方もいました。作品展示会場では、各寮からの寮紹介のパネルなどをたくさんの方々が熱心に見入っていました。



ボランティアの皆さんの協力のもと、来賓を含め千人を超える方が集い、地域交流を深めることができました。



◎あすなるの郷ABA勉強会及び講師派遣

「応用行動分析」を内容とした勉強会を所外の方々も交え毎年開いており、職員の資質向上及び支援の専門性を高めるため、基礎編・応用編と参加者に合わせ年間10回開催しました。また、今年度は、他施設の協力を得て、実際の利用者ケースを基にいくつかのグループで利用者支援について意見交換を行う実践編を開催しました。参加者は年間を通して4回集まり、記録を分析し支援計画を作成、経過報告を受けての計画見直し等、より実践的な利用者支援について協議しました。さらに、専門的知識を有する職員の講師派遣や施設訪問などによる支援技術の普及にも努めています。



◎「いいねカード」

「いいねカード」は、職場環境改善の取組と職員の仕事に対するモチベーションアップを目的とし、平成29年4月から総看護師長を部長とする「いいねカード部」を作り開始しました。上司も部下も良いところを見つけ合い、感動エピソードなどをカードに記入し投稿するものが与えられることになっており、ほめるの「見える化」を実践中です。



福祉サポーターセンターあすなる

(相談支援事業・多機能型事業(就労継続支援B型・生活介護)・共同生活援助事業)

利用者の地域生活を総合的に支援できるよう、相談支援事業・多機能型事業(就労継続支援B型・生活介護)・グループホーム事業を一体的に運営する「福祉サポーターセンターあすなる」を開設しました。(平成29年4月開所)

防犯訓練

平成29年12月12日(火)、多機能型事業所において、利用者様と福祉サポーターセンターあすなるのスタッフを対象に防犯訓練を実施しました。今回は、製造メーカーから講師を招いて、刺又や瞬間拘束用具の効果的な使用方法について実技を交えて学びました。不審者役のスタッフからは、「刺又と瞬間拘束用具が一体化するため、複数で囲まれると威圧感があり、拘束されると抵抗できなかつた。」との感想がありました。今後さまざまな訓練を重ね、利用者様が安心して日常生活を送れるよう努めていきます。



環境美化

福祉サポーターセンターあすなるでは、利用者様とスタッフが協力して事業所やグループホーム近隣の環境美化活動を定期的に実施しています。平成30年1月5日(金)の活動では、事業所周辺の歩道約1kmにわたり、50名の参加者によりゴミ拾いを行いました。1時間あまりの活動でしたが、利用者様からは、「道路も綺麗になったし、身体も温まって良かった。」などの感想がありました。地道な活動ですが、少しでも地域に貢献できるように今後も続けていきたいと考えています。



茨城県立児童センター子どもの城

(児童厚生施設 B型児童館)

子育てカフェ(子どもの城)

こどもの城では、小さなお子さま連れのご家族を対象に、「子育てカフェ」を開催しています。今回は、7月に開催した「ベビーマッサージ」と10月に開催した「ハロウィンイベント」について報告します。

ベビーマッサージ

「ベビーマッサージ」は、ママの手と赤ちゃんの肌がふれ合うことで親子の絆が深まることから、こどもの城では積極的に開催している活動の一つです。

はじめはママも赤ちゃんも緊張した様子でしたが、ママが声をかけながらマッサージを行うことで、赤ちゃんだけでなくママも自然とリラックスするなど、穏やかな時間を過ごすことができました。



ハロウィンイベント

「ハロウィンイベント」では、「かぼちゃのどら焼き」を作りました。難しい部分は親子で協力しながら挑戦していました。普段はあまりかぼちゃのお菓子を食べたことがない子どもたちも自分で作ったという誇らしさから夢中になって食べている様子も見られ、あらためて食育の大切さを感じました。

今後は、年間を通して定期的に企画し、こどもの城がご家族同士の交流の拠点となり、子育ての輪が広がればと思います。



岡崎基金派遣研修

岡崎基金派遣研修は、茨城県立コロニーあすなろの初代病院長であった岡崎藤磨先生の御寄付により、職員が見聞を広め資質の向上を図ることを目的として、昭和54年から始まりました。平成29年度は、先進施設の運営や処遇技術等を学ぶため、6名の職員を派遣しました。お世話になりました施設の皆様にご心よりお礼申し上げます。

自閉症及び強度行動障害者への支援

研修先 社会福祉法人京都ライフサポート協会

支援員 和田 勝幸

11月13日から17日の5日間、京都府の社会福祉法人京都ライフサポート協会にて研修をさせていただきました。京都ライフサポート協会では、重度の知的障害、自閉症及び強度行動障害の方が利用されていました。施設には、「ありのままに、当たり前前に暮らす」という方針がありました。障害の程度に関係なく、働いてお金を稼ぎ、生きがいを感じていただけるように、施設全体で取り組んでいました。また、生活環境の構造化に力を入れており、住居のユニット化をすることで、利用者様の生活の質を向上させ、望ましくない行動を未然に防ぐ支援方法をとられていました。

今回の研修では、生活の環境が利用者様に大きく影響を与えることがわかりました。つばき寮に入所されている利用者様に生きがいを持っていただくためにも、日中活動への取り組み、生活環境の構造化に力を入れていこうと思います。研修に行かせていただき、ありがとうございます。

自閉症及び強度行動障害者への支援

研修先 社会福祉法人東京都社会福祉事業団

東京都東村山福祉園

主任 米川 直樹

11月6日から10日までの5日間、東京都東村山福祉園へ研修に行かせていただきました。強度行動障害者支援に係る技術の習得をテーマに、構造化のアイデアや利用者支援における統一された支援体制等を学ぶことができたのは、大きな収穫であったと感じています。特に、同じ支援を行うための支援手続きなどの情報共有や職員にも成功体験をさせるなど、「職員の構造化」という概念は、今後支援を行っていくうえで、重要な内容であると感じました。研修で得た収穫を、ファミリー内で今後の支援に役立てていきたいです。今回、岡崎基金研修の機会を与えてくださりまして、誠にありがとうございます。

高齢知的障害者への支援

研修先 社会福祉法人南山城学園

障害者支援施設「和」

支援員 柳林 佑輔

私は11月13日から17日に掛けて京都府城陽市にある南山城学園の障害者支援施設「和」(なごみ)へ訪問しました。「和」は、けやき寮とくぬぎ寮の2寮から構成された施設で、私はけやき寮で現場研修を受けました。バザーで販売する座布団を作製していたり、担いで不足から地域の高齢農家の方と協力して「よしず」を作成していたりと日中活動を通して地域社会に貢献している様子を目の当たりにしました。寮内で行われる陶芸教室や紙すきの材料作りの場を見学させてもらい、高齢障害者の方へ作る喜びと達成感を得る支援をしている事に感銘を受けました。

今回の派遣研修を通して、場所は違っても利用者の為により良い支援を提供することは同じである事を改めて感じました。「和」の施設の皆様には本当にお世話になりました。今後、研修で学んだ事をこれからの支援に活かせられるよう、日々努力を積み重ねて行きます。

地域生活移行に関する支援

研修先 社会福祉法人長野県社会福祉事業団

長野県西駒郷

副寮長 川村 純子

12月11日から5日間、長野県駒ヶ根市にある社会福祉法人長野県社会福祉事業団長野西駒郷で、地域生活移行に係る体制整備及び利用者様の支援について研修させて頂きました。

地域生活移行の取り組みでは、何よりも利用者様の意思を尊重し、ニーズに合わせて移行の形態は多様であり、ご家族の意向(安心)に配慮することが大切であることを改めて感じました。また、地域生活移行後も日中活動の場として西駒郷を継続して利用できる体制なども大変参考になりました。

西駒郷同様に県立施設としてのセーフティネットの役割や、利用者様が望む暮らしとは何かを常に意識しながら、研修の成果を今後の支援に役立てていきたいと思えます。

超重症心身障害者等への支援

研修先 堺市立重症心身障害者(児)

支援センター「ベルデさかい」

専門員(看護師) 澤田 裕美子

12月11日から15日までの5日間、「ベルデさかい」で研修させていただきました。私の研修先は、現在のほら寮と対極にあるような施設でした。近代的な設備と明確な業務分担。保護者の面会率の高さと外泊率の低さ。入所者の年齢は若いですが、重症度は高い。施設の開所はわずか6年目。そこで感じたことは、各業種間のつながりが強固になるほど利用者の利益は大きくなるということです。多くの情報を共有し、利用者にとってのベストを模索することはとても重要と痛感しました。

今回、多くの学びを与えてくれたベルデさかいに感謝するとともに、5日間の研修の機会を与えて下さったことを感謝致します。

重症心身障害児者及び重度障害者へのリハビリテーション支援

研修先 堺市立重症心身障害者(児)

支援センター「ベルデさかい」

主任(作業療法士) 村上 亜由美

12月11日から15日までの5日間、大阪府堺市にある「堺市重症心身障害者(児)センター」ベルデさかいに岡崎基金研修に行かせていただきました。館内の空調や設備など、建て替えにあたり参考にさせていただきました。作業療法の部分が多く、興味深く見させていただきました。作業療法の研修では、摂食から姿勢保持、スイッチ関連機器まで、日頃から悩み、疑問に思っていた事柄について、機器や様々な資料を通して教えてくださり、また実際に利用者様に触れさせていただくことで実践を学ぶことができました。

この研修で貴重な学習の機会を得られたことに感謝し、今回学んだことを、業務に生かしていけるよう一層精進してまいります。

特集

地域の障害者を支える

地域生活支援センター

地域生活支援センターは、あすなろの郷の中でも、地域と密接なつながりをもっての部署です。発達障害の気になるお子様やご家族の方の相談・療育から、知的障害のある成人の方の相談・支援まで各種のサポートを行っています。地域で暮らす方が、「皆と一緒に」「自分らしく」「安心して暮らせる」ようにお手伝いすることが、地域生活支援センターの役割であり、私たちスタッフの喜びでもあります。



地域で安心して暮らす

地域の安心の窓口になります

地域での困りごとに対し、相談をお受けしています。必要に応じ、家庭訪問による支援も行っています。また、保護者の急病など緊急の場合に、二十四時間いつでも利用者の受け入れ（緊急ステイ）を行います。短期入所・日中一時の窓口にもなっています。

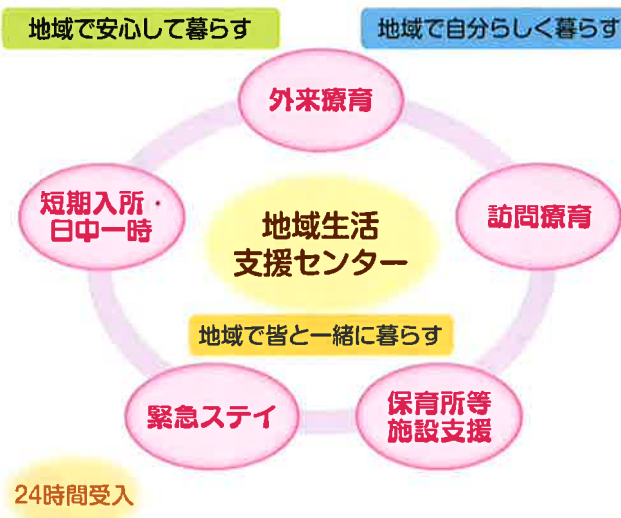
地域で自分らしく暮らす

地域で自分らしい暮らしを送れるようお手伝いします

地域生活支援センターの外來療育では、学齢期のお子様を対象に、小集団による療育を行っています。自己表現できる場として、自信を持って参加できることを大事にしています。



地域生活支援センターの役割



小集団での療育には、「動き」の楽しさを活用し、お子様の身体・認知・心理機能の全面的な発達を図ることを目的とした『ムーブメント活動』（スタッフは、日本における



地域で皆と一緒に暮らす

『宿泊支援』を実施しています。内容は、親子で泊まる『親子宿泊』と、お子様たちだけで泊まる『生活スキルトレーニング』があり、ライフステージに合わせた支援を行っています。

障がいに関係なく皆が一緒に暮らせる地域を目指します

保育所等施設支援では、保

育所や幼稚園、認定こども園、保健センターの発達支援教室、学校、福祉サービス事業所を訪問します。日課や集団生活の課題について、コンサルテーションを通じて、より良い支援方法やインクルーシブな環境づくりを一緒に考えていきます。

また、訪問療育においては、ムーブメントの活動を通して、「皆と一緒に」という経験の場を提供しています。障がいに関係なく皆が輝けるのはムーブメントならではの、自分らしく、当たり前前にいられる、ということを大切にしたいと思います。



ムーブメントの第一人者である横浜国立大学・和光大学名誉教授 小林芳文先生よりご指導いただいています。軽作業体験を通して働く意識を育てることを目的とした『作業療育』、社会生活の中で必要なスキルを身に付けていくことを目的とした『集団活動』などがあります。

また、外來療育利用者の方を対象として、年一回、

地域生活支援センターでは、地域の暮らしを支え、皆様のお役に立つことを目指しています。お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先 電話 0299-2599-0024

職員紹介

当事業団に新規採用された職員からの一言です。
これからどうぞよろしくお願ひ致します。

①所属・職種・氏名
②アピールポイント
(誰にも負けないと自負する自分の強み)
③マイブーム
④チャレンジ宣言
(仕事・プライベート問わず)



①管理課 宋養室 技師(宋養室) 拓海
②何事も前向きに受け止めて、努力し続けることです。
③音楽鑑賞
④少しも早へ入前の茶養生となれず、しっかり仕事に取り組みたいと思います。



①さつき寮東ファミリー 支援員 高崎 徹
②前向きな思考、楽しそつな事、やりたい事を妄想すること！
③なりたいたい自分になること！




①さくら寮東ファミリー 支援員 山崎 藤丸
②綺麗好きです。
③シヨキング、ストレッチ
④5kg減量したいです。



①ふじ寮西ファミリー 支援員 木間塚 芳子
②何事も明るく前向きに取り組みます。
③ペット(犬2匹)親ばかなようですが、さすがとて可愛いらしいです。
④難しいとは思いますが、出来れば資格取得をこころえています。



①ばら寮 看護師 綿引 雅江
②何事にも一生懸命取り組みます。
③スポーツ観戦、アウトドア、ゲーム探索
④今までの経験を生かしながら、新しい分野にも挑戦して行きたいです。



①ふじ寮東ファミリー 支援員 上田 洋之
②常に笑顔で頑張りたいたいと思います。
③ドライブが好きです。
④福祉関係の研修などに出席していきたくと思います。



①病院医務局 外来 看護師 安藤 恵美子
②笑顔と誰とでも良好な関係を築けること
③読書、観葉植物
④知識や技術を身につけて色々な事に挑戦したいです。



①はぎ寮西ファミリー 支援員 田所 千裕
②人間関係を大切にしながら、忍耐強く取り組みます。
③ハープ(料理・クラフト)・音楽(歌・ピアノ)・絵画・読書
④新しい事にチャレンジしながら資格取得を目指します。



①さつき寮東ファミリー 支援員 青柳 和樹
②明るく、元氣。
③散歩、読書
④1か月で5冊以上本を読む。



①ぼたん寮西ファミリー 支援員 鬼澤 めぐみ
②何事にも柔軟に対応できること
③旅行
④個人的なスキルアップに励みたく。




①あおい寮東ファミリー 支援員 齋藤 大晃
②楽しみながら、明るく、元気に仕事に取り組みます。
③旅行、映画鑑賞
④福祉関係の資格取得を目標に頑張ります。



①ばら寮 看護師 浅野 武
②一生懸命取り組みますのでよろしくお願ひします。
③映画鑑賞、ラーメン屋巡り
④一つ一つの技術を身に付け、より良い支援ができるよう頑張りたいです。




①つめ寮西ファミリー 支援員 吉田 裕紀
②何事も真面目に一生懸命取り組みます。
③カフェめぐり・映画鑑賞
④資格取得に励みたいと考えています。



①はぎ寮東ファミリー 支援員 白田 順
②何事にも責任感を持ち意欲的に取り組みます。
③カラオケ・野外フェス
④支援技術向上のための資格取得



①ゆり寮東ファミリー 支援員 片岡 大介
②何事も初志を貫徹できるよつ努めております。
③読書
④自己の研鑽と啓発を心がけております。



①あおい寮西ファミリー 支援員 藤江 美奈子
②明るく、真面目。どんな時にも平常心を保てる。
③パン・スイーツ作り
④ノーマライゼーションの実現



①ばら寮 看護師 寺門 孝浩
②どんなことにも一生懸命取り組みます。
③野球、マラソン
④知識や技術の習得に努め、より良い看護や介護を提供していきたいです。




①あやめ寮東ファミリー 支援員 菊田 秀一
②常に笑顔で明るく楽しく仕事をこなしています。
③釣り、友達と飲み、テニス、ダンス等
④みなさんの足を極力引っ張らないよう多方面で頑張っています。



①はぎ寮西ファミリー 支援員 寺門 涼
②何事にも真面目に取り組みます。
③英語学習
④新しいことに挑戦する。



①ゆり寮西ファミリー 支援員 大和田 主悦
②何事にもあまり物怖じしない性格だと思えます。
③梅水晶(お酒好きの方にオススメ)
④仕事・行動支援専門員研修プライベート・シックスバック



①病院医務局 医師 平島 淑子
②仕事を溜めない
③インドア
④モチベーションが続く限り働きます。

